



能登
エリア

七尾市

078

地域文化発信事業

能登畠山氏とゆかりの文化

- 開催日：令和5年9月23日(土・祝)～10月29日(日)
- 開催会場：石川県七尾美術館



◆ 実施状況

室町時代に能登国を統治した大名の能登畠山氏は、歴代当主が文化に深い関心を示し、京都と盛んに交流したことから、城下町七尾を中心に、華やかな「能登畠山文化」が開花しました。その豊かな文化的土壌は、桃山時代を代表する絵師・長谷川等伯の誕生にも大きな影響を与えたとされます。

本展では主に石川県内に伝来する、能登畠山氏の文化や歴史に関するゆかりの作品や資料などを中心に68点を展示し、特に能登畠山氏の連歌懐紙3巻を一堂に揃えた展示は、今回が初の機会となりました。そして長谷川等伯の若年期・能登時代の作品などもあわせて紹介し、能登畠山氏と等伯の関わりにも着目しました。

会期中は、「歴史ファン」や、「等伯目当て」の来場者も多く、能登演劇堂の「等伯一反骨の画聖」観劇に合わせて観覧された方も見受けられ、能登畠山氏と等伯との深い関わりも知ってもらう機会になりました。

また、会期中の10月22日には、関連事業として記念講演会も実施しました。

【記念講演会】

「能登畠山氏とその文化」(聴講無料)

日時：10月22日(日)14:00～

講師：東四柳史明(金沢学院大学名誉教授)

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、七尾市、七尾市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023七尾市実行委員会、石川県七尾美術館(公益財団法人七尾美術財団)

能登
エリア

七尾市

079

地域文化発信事業

企画展「七尾、海ものがたり～七尾湾をめぐる里山里海文化考～」

- 開催日：令和5年10月1日(日)～11月26日(日)
- 開催会場：のと里山里海ミュージアム



◆ 実施状況

七尾湾と富山湾に面する七尾市域は、古代から能登国の中心都市として栄え、長らく能登半島における人流・物流の拠点の担っていました。

本展では、こうした原始から現代まで七尾湾周辺で繰り広げられてきた人々の暮らしや交流の足跡を紹介し、自然・歴史・民俗資料を通じて、風土によって育まれた多種多様な七尾の文化の魅力を発信しました。

また、関連イベントでは、七尾湾でとれる海藻を使ったトコロテン作り体験などを行い、参加者は自分で作った七尾湾の“食”に舌鼓を打っていました。

【プログラム】

(1)七尾湾周辺の自然・歴史・文化に関する展示

[テーマ1] 海とともに暮らす～恵みと祈り～

[テーマ2] 海の道をゆく～交流する人、モノ～

[テーマ3] 海辺の今昔～風景にみる里海～

(2)企画展に関連したイベント

①七尾湾の“食”体験! 能登島のトコロテン作り

日時：10月28日(土)14:00～16:00 講師：ねねの会

②能登・七尾の魚たち～海の生物調査体験談より～

日時：11月18日(土)14:00～15:30

講師：池口新一郎(元のとじま水族館副館長)

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、七尾市、七尾市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023七尾市実行委員会、のと里山里海ミュージアム

地域文化発信事業

080

七尾のでっかい祭りを体感しよう!

- 開催日：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)の土日・祝日
- 開催会場：和倉温泉お祭り会館

能登
エリア

七尾市



◆実施状況

七尾が誇る四大祭りである「青柏祭」「石崎奉燈祭」「お熊甲祭」「能登島向田の火祭」を紹介しました。

ワークショップでは、祭りの小道具作りや、木遣り唄、太鼓打ち体験など、祭りそのものを「体感」していただける体験メニューを企画実施し、多くの来場者に七尾の祭りの魅力を感じていただきました。

【プログラム】

- ①「青柏祭」を体感しよう!
 - ・青柏祭「ざい」づくり体験(参加費500円)
 - ・青柏祭「木遣り唄」体験
 - ・青柏祭「でか山」探検
- ②「石崎奉燈祭」を体感しよう!
 - ・石崎奉燈祭「奉燈担ぎ」体験
- ③「能登島向田の火祭」を体感しよう!
 - ・向田の火祭「竹笛」づくり体験(参加費500円)
 - ・向田の火祭「雨乞太鼓」太鼓打ち体験
- ④「お熊甲祭」を体感しよう!
 - ・お熊甲祭「祓い棒」づくり体験(参加費500円)
 - ・猿田彦が舞う太鼓打ち体験

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、七尾市、七尾市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023七尾市実行委員会、一般社団法人ななお・なかのとDMO

地域文化発信事業

081

無名塾+市民合同公演 等伯 -反骨の画聖-

- 開催日：令和5年10月20日(金)～11月5日(日) 休演日：10月25日(水)、31日(火)
- 開催会場：能登演劇堂

能登
エリア

七尾市



◆実施状況

七尾に生まれた天下の絵師、「長谷川等伯」の波乱に満ちた生涯を、無名塾(11名)と市民キャスト(10名)が合同で熱演しました。七尾市名誉市民である俳優の仲代達矢さんによる演出は、日本で唯一の演劇専用ホールならではの舞台奥大扉が開くシーンなど、多くの観客を魅了しました。15回の公演で、全国から延べ6,447名に観劇いただき、演劇文化の魅力と「長谷川等伯」生誕の地を全国へ発信することができました。

「等伯」は、無名塾のオリジナルの舞台で、台本は輪島市出身の脚本家岡山矢さんが担当し、市民キャストには、能登在住者が5名参加されるなど、能登にゆかりのある人たちに舞台を支えていただきました。

そのほか、七尾市独自事業として、公演に合わせて七尾市文化協会(茶道会員)による茶会や、「等伯会」PRブースを設けるなど、観劇者と市民が一体となるイベントも開催しました。

【演出】仲代達矢

【上演台本】岡山矢

【出演】(無名塾)赤羽秀之、中山研、本郷弦、鎌倉太郎、進藤健太郎、川村進、円地晶子、上水流大陸、島田仁、中山正太郎、朝日望
(市民キャスト)伊藤福久男、金成弘美、狩野英明、斯波安夫、勢登健雄、寺谷三郎、三野待子、山下珠美、山下敏博、山内凜

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、七尾市、七尾市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023七尾市実行委員会、公益財団法人演劇のまち振興事業団



能登
エリア

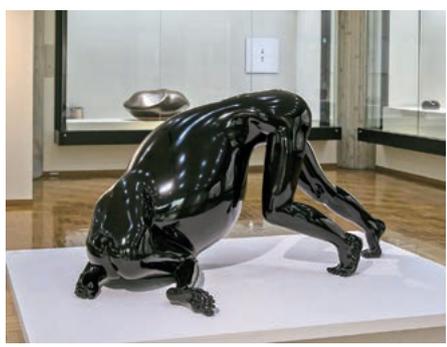
輪島市

082

地域文化発信事業

漆風怒濤 - 現在を駆け抜ける髹漆表現 -

- 開催日：令和5年10月1日(日)～11月26日(日)
- 開催会場：石川県輪島漆芸美術館



◆ 実施状況

輪島塗の原点ともいえる「漆を塗ること」に特化した作品の展覧会を開催しました。素材と正面から対峙することで多様性を獲得し、前進を続ける髹漆表現の現在を切取る試みとしました。漆塗りが施されることではじめて成立する創作の数々は、その造形や表現の理念をより直截的に鑑賞者に伝達し、まさに「漆風怒濤」を体現する内容となりました。

【付帯事業】

- ・10月14日 アーティストトーク「髹漆の現在地から未来へ」(美術館講義室)
林暁さん、田中信行さんをゲストとしてお招きし、展覧会出品作家らが求める、現在の漆塗りによって達成される製作の意義について、熱のこもった意見交換が行われました。
- ・10月21日 プレミアムトーク「髹漆の魅力を探る」(県輪島漆芸研修所講堂)
檀ふみさん、室瀬和美さん、小森邦衛さんをゲストとしてお招きし、本展覧会の醍醐味である、漆塗りの魅力や塗と造形の関係性を分かりやすく紹介するなど、参加者は展覧会の作品を深掘りして鑑賞することができました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、輪島市、輪島市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023輪島市実行委員会、石川県輪島漆芸美術館

能登
エリア

輪島市

083

地域文化発信事業

輪島 ～時國-祭礼-ZEN～ 輝く文化のパビリオン 里山里海の食文化

- 開催日：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)
- 開催会場：時國家住宅 輪島市内飲食店



◆ 実施状況

11月25日に、重要文化財時國家住宅において「食談義in時國家」を開催し、20名が参加しました。国民文化祭に併せて特別公開を行った時國家住宅の解説や食談義で使用する「時國家住宅」に保管されている器の解説などを行い、参加者は文化財の理解を深めていました。

食談義では、時國家の祖である「平時忠公が食していたであろう京料理」と「町野川流域の食文化」をテーマに、参加者は当時に思いを馳せつつ、当時と現在の食文化の比較を楽しみながら料理を堪能しました。

また、いしかわ百万石文化祭2023の期間中は、市内飲食店が参加し、「輪島食堪能パビリオン」として地元産品を使った料理を提供するなど、輪島の食文化の魅力を紹介しました。

【食談義in時國家プログラム】

- 「時國家住宅」及び「庭園」の解説
- 「時國家資料の公開・普及事業」
- 食談義

場所：国指定重要文化財「時國家住宅」上段の間・中段の間

料理：「日本料理富成」

(ミシュランガイド北陸2021 一つ星&グリーンスター獲得)

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、輪島市、輪島市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023輪島市実行委員会



地域文化発信事業

084

里山里海きりえの祭典

- 開催日：令和5年10月17日(火)～10月26日(木) ※ワークショップ・アートライブは10月22日(日)
- 開催会場：輪島市文化会館 2階展示室、3階301・302会議室

能登
エリア

輪島市



◆実施状況

今回で第29回を迎える「児童生徒きりえ作品展」を国民文化祭事業として拡充し、日本きりえ協会の特別展と障害のある作家によるワークショップ・アートライブを合わせて開催しました。

日本きりえ協会特別展では、2011年に「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことから、日本の原風景を表現した「里山里海」部門を設け、日本きりえ協会の力作を展示しました。

アートライブでは、地元作家の坂下奈美さんと不思議な世界観を表現する星先こずえさんによる「きりえ」の制作を間近で鑑賞してもらい、「きりえ」の魅力を堪能していただきました。

ワークショップでは、渡邊義紘さんによる「きりえ」の実演とともに、参加者がレベル別に分かれて「きりえ」を楽しむ「きりえ」体験も行い、渡邊さんのレベルの高さに驚く方が多くみられました。

また、全国の小中学校から公募した児童生徒によるきりえ作品展も開催しました。

【展示内容】

- 日本きりえ協会特別展 54名96点
- ワークショップ・アートライブ出演者、切り絵愛好会 44点
- 児童生徒きりえ作品展 14校241点

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、輪島市、輪島市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023輪島市実行委員会

地域文化発信事業

085

輪島～時國-祭礼-ZEN～輝く文化のパビリオン きらめく文化財

- 開催日：令和5年10月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)、11月11日(土)、25日(土) ※11月12日(日)は荒天のため中止
- 開催会場：大本山總持寺祖院周辺、輪島キリコ会館周辺、時國家住宅

能登
エリア

輪島市



◆実施状況

市内の文化財・食文化・歴史文化を観る・食べる・感じることができる市内まるごとパビリオンとして本事業を実施しました。

きらめく文化財として、曹洞宗大本山總持寺祖院や重要文化財時國家、輪島キリコ会館をデジタルアートで彩りました。

【第1弾 大本山總持寺祖院会場】(10月21日、22日、28日、29日)

光と音による秋祭りのイメージでARIWAさんと里アンナさん×佐々木俊之さんによる音楽やダンスのステージの後、山門を地域の伝統芸能のイメージを取り入れたデジタルアートにより村祭りの雰囲気を楽しんでいただきました。また、周辺の總持寺通り商店街において、アーティスティックストリートを開催し、竹灯籠などを使ったライトアップを行いました。

【第2弾 キリコ会館会場】(11月11日)

里山里海の文化祭りのイメージで地元の和太鼓やダンスチーム、保育園児などのステージイベントの後、「能登のキリコまつり」をイメージしたデジタルアートでキリコ会館を彩りました。

【第3弾 時國家会場】(11月25日)

市出身の宝生流能楽師と輪島・和太鼓虎之介のステージの後、平家ゆかりの伝統をイメージしたデジタルアートで時國家住宅を照らし出し、悠久のときを感じさせる内容となりました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、輪島市、輪島市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023輪島市実行委員会



能登
エリア

輪島市

086

地域文化発信事業 / 2023ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭連携事業

来訪神と御面太鼓の祭典

- 開催日：令和5年10月29日(日)
- 開催会場：輪島市文化会館 大ホール



◆ 実施状況

日本遺産「灯り舞う半島～熱狂のキリコ祭り～」や、無形文化遺産「来訪神・仮面・仮装の神々」にちなんだ太鼓の中から、輪島市の「御陣乗太鼓」をはじめ、秋田県のなまはげ太鼓恩荷など、全国各地の御面を付ける太鼓団体による演奏が披露されました。

オープニングは、輪島まだら保存会による歓迎演目で幕を開け、次代を担う打ち手による「まつり囃子」の演奏後、門前とどろ保存会による歓迎演目を挟みながら、県内外7団体による迫真の演技と力強い演奏により、能登の祭りをはじめ、各地の祭りや太鼓の魅力を発信し、約1,100名の観客を魅了しました。

また、終了後は地元団体による送り太鼓を行い、舞台終了後も躍動感あふれる演奏で観客を楽しませました。

【プログラム】

オープニング映像

主催者挨拶

ステージ 7団体、地元関係4団体

送り太鼓

【出演団体】なまはげトラディション恩荷、佐渡鬼太鼓(和泉青年会)、志多ら、勝山左義長ばやし保存会、御陣乗太鼓保存会、住吉神社御神事太鼓保存会、八坂神社彌榮太鼓保存会、輪島まだら保存会、門前とどろ保存会

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、輪島市、輪島市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023輪島市実行委員会、公益社団法人石川県太鼓連盟

能登
エリア

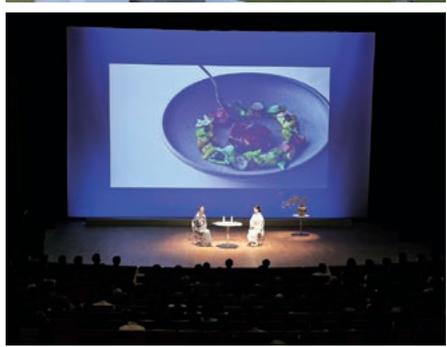
珠洲市

087

地域文化発信事業

珠洲焼×【食・酒・文化】

- 開催日：令和5年10月14日(土)～10月15日(日)
- 開催会場：珠洲市多目的ホール「ラポルトすず」



◆ 実施状況

珠洲焼と食・酒・文化の融合により今の暮らしにあった現代陶の活用を提案するイベントを開催しました。

10月14日は、『文化×珠洲焼』をテーマに、花道家の上野雄次さんが珠洲ちよんがり節の唄に合わせて珠洲焼の大きな甕に枝や花を植えこむ花生けパフォーマンスを行い、ダイナミックな作品を仕上げ、来場者を圧倒しました。

その後、『食×珠洲焼』をテーマに、俳優の常盤貴子さんと、ギャラリー舟あそびの舟見有加さんによる食談議を開催しました。常盤さんは「珠洲焼は一度使うと無限に広がっていく。我が家では完全に一軍の食器で毎日登場していて、何を乗せても映えるし、本当に美味しそうに見える」と話し、「珠洲焼には緑が凄く似合う」と珠洲焼の器に自らが調理した食材をのせた画像を紹介していただきました。

10月15日には、『酒×珠洲焼』と題したトークショーを開催しました。陶磁研究家の森由美さんが珠洲の地酒に適した珠洲焼の酒器を提案し、森さんは「珠洲焼はすごい物!!この黒い焼き物は他にない」と訴え、「多様性を良しとする日本の文化はぐい呑みに表れているのではないかと話しました。また、珠洲焼作家の篠原さんが「珠洲焼の酒器は使えば使うほど表情が変わってくる」と述べ、このほかにも櫻田酒造株式会社の櫻田博克さんが地酒の魅力を語りました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、珠洲市、珠洲市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023珠洲市実行委員会、珠洲焼創炎会

088

地域文化発信事業

寿受狂言の会

- 開催日：令和5年10月20日(金)
- 開催会場：珠洲市多目的ホール「ラポルトすず」

能登
エリア

珠洲市



◆実施状況

江戸時代の加賀藩前田家のお手役者(お抱え狂言師)であった三宅藤九郎家の十世三宅藤九郎と和泉流宗家一門がそろい踏みで華やかに上演する狂言公演を実施しました。

いしかわ百万石文化祭 2023 のために制作した新作狂言「あえの風」では、珠洲市文化協会の皆さんにご協力いただき、珠洲市の豊かな文化を題材に、「後世に伝えたい珠洲の魅力」を発信する内容となっており、漁師と役人の滑稽なやりとりと、幸せを運ぶ「あえの風」を絡めた物語で観客を惹きつけました。

なかでも、魚をせがむ役人に対する「まことにそなたはだら(ばか)な人じゃな」と方言を交えたセリフには、会場から笑いが起こるなど、狂言の面白さを感じてもらうことができました。

このほかにも、2021年の新作狂言である「珠洲宮箆」や江戸時代に加賀藩で独自に上演された加州御狂言など、地域の魅力も伝わる見所満載のプログラムが展開されました。

【プログラム】狂言「盆山」、狂言「珠洲宮箆」、狂言「あえの風」、加州御狂言「蜘蛛の糸」

【出演者】三宅藤九郎、和泉元彌、和泉淳子 他

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、珠洲市、珠洲市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023珠洲市実行委員会

089

地域文化発信事業

万葉の光祭り

- 開催日：令和5年10月14日(土)～10月29日(日)／11月3日(金・祝)～11月5日(日)
- 開催会場：気多大社／能登千里浜レストハウス

能登
エリア

羽咋市



◆実施状況

万葉集編者大伴家持が訪れた気多大社、そして、羽咋の地で家持が詠んだ歌碑が立つ千里浜でイルミネーションイベントを行い、県内外の大勢の方々に万葉の世界を光で体感していただきました。

【気多大社】

境内入口の鳥居から松明の明かりで照らし、菅原神社・太玉神社の通路や「入らずの森」でのライティング、拝殿のプロジェクションマッピングとキャンドルによる演出を行いました。

なかでも、プロジェクションマッピングでは、美しい和柄や万葉短歌の映像と音楽で光の演出がより幻想的なものとなり、訪れた人々はしきりにカメラのシャッターを切っていました。

【能登千里浜レストハウス】

家持歌碑のライティングと千里浜海岸7色ライトアップ、灯籠でのあかりの演出を行いました。

千里浜7色ライトアップでは、光る砂浜において写真を撮る親子や、光が反射した美しい波打ち際を歩く人たちが大勢訪れ、家持も眺めたであろう景色を楽しんでいました。

また、来場者に透明カップに絵や文字をデザインしてもらい、その中にLEDキャンドルを入れて並べ、大きなハート型を形作る「みんなのあかり」イベントも行われ、家族連れなどが楽しそうに絵を描いていました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、羽咋市、羽咋市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023羽咋市実行委員会



能登
エリア

羽咋市

090

地域文化発信事業

千里浜「砂」の芸術祭

- 開催日：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)
- 開催会場：道の駅のと千里浜、宇宙科学博物館コスモアイル羽咋、妙成寺、気多大社、能登千里浜レストハウス



◆ 実施状況

世界でも珍しい車で波打ち際を走ることができる千里浜の浜砂の特徴を活かし、高さ3メートルを超える大型砂像を羽咋市内5カ所の文化・観光施設に設置しました。

制作は、千里浜砂像協会のクリエイターに加え、愛知県及び高知県砂像連盟の方々にもご協力いただき、細かな技法を凝らしたすばらしい作品を展示することができました。

観覧者からは、「砂でできているとは思えないくらいリアルで繊細に表現されている」との感想もありました。

クオリティの高い作品を多くの方々に観覧いただいたことにより、海岸浸食により年々幅が狭くなる千里浜の現状や、世界でも珍しい車で波打ち際を走ることができる砂の特徴、芸術性の高い砂像文化の魅力などの情報を広く伝えることができました。

また、砂像展示に合わせデジタルスタンプラリーを実施し、5カ所全てのスタンプを集めた方に、抽選で羽咋市の特産品をお送りし、羽咋の食文化も合わせて楽しんでいただきました。

【展示内容】

- 道の駅のと千里浜 「弁天・龍・のとしし」
- 宇宙科学博物館コスモアイル羽咋 「宇宙関連アニメキャラクター」
- 妙成寺 「五重の塔と二王像」
- 気多大社 「気多大社縁結び～利家とまつ」
- 能登千里浜レストハウス 「加賀人形と石川あれこれ」

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、羽咋市、羽咋市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023羽咋市実行委員会、千里浜砂像協会

能登
エリア

羽咋市

091

地域文化発信事業

「UFO神話のまち羽咋」特別展・フォーラム

- 開催日：特別展 前半：令和5年10月14日(土)～10月30日(月) 後半：11月8日(水)～11月26日(日) フォーラム 11月12日(日)
- 開催会場：宇宙科学博物館コスモアイル羽咋



◆ 実施状況

羽咋市は、江戸時代から未確認飛行物体の目撃例があったとされる場所で、「UFOのまち」と呼ばれています。この「UFOのまち羽咋」の魅力を発信するため、UFOに関するパネルや、NASAが発表した宇宙人に関する資料などを展示する特別展、UFOのまちの仕掛人によるトークなど、UFOマニアだけではなく、大人から子どもまで楽しめるイベントを開催しました。

【特別展】

羽咋市が何故UFOのまちなのか?というテーマでのパネル展を開催しました。UFOのまちの起源となった気多故縁起・鹿島郡誌の解説から始まり、エンタメやオカルトと思われがちなUFOや宇宙人についての調査研究や各国の動向などを宇宙科学博物館コスモアイル羽咋アドバイザーである高野誠鮮さんの経験・体験をもとに14枚のパネルにまとめ展示しました。

【フォーラム】

NASA(米国航空宇宙局ジョンソン宇宙センター)への留学経験がある中里龍生さん(群馬県藤岡市出身)をお招きし、宇宙医学をテーマにご講演頂きました。また、中里さんの講演後、高野さんとの対談も実施しました。

来場者からは、UFOや宇宙医学に関する最新の研究や見解に触れることができ、大変興味深いフォーラムだったとの声が聞かれました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、羽咋市、羽咋市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023羽咋市実行委員会



地域文化発信事業

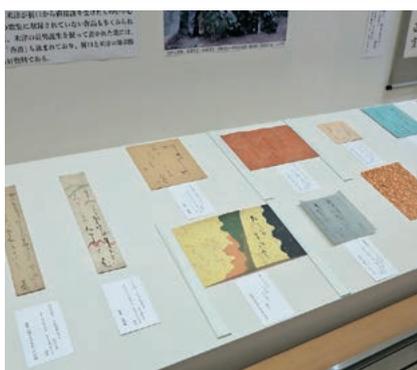
092

折口信夫がのこしたもの

- 開催日：①折口信夫没後70年展 令和5年10月14日(土)～11月26日(日) ②「折口学」を受け継ぐシンポジウム 10月21日(土) ③藤井家特別公開展示 10月22日(日)
- 開催会場：①羽咋市歴史民俗資料館 ②宇宙科学博物館コスモアイル羽咋 ③藤井家

能登
エリア

羽咋市



◆実施状況

柳田国男の愛弟子として民俗学の基礎を築いた折口信夫の業績と生涯を分かりやすく紹介する展覧会やシンポジウムを開催しました。

【折口信夫没後70年展】

國學院大學所蔵の折口信夫と養子である羽咋市出身の藤井春洋に関する軸や書など実筆の品を中心に展示するとともに、来場者がより理解が深まるよう図録冊子を作成・配布しました。

【「折口学」を受け継ぐシンポジウム】

國學院大學教授3名により、民俗学、万葉集、祭祀考古学など各分野の有識者の視点から折口信夫の世界の魅力、「折口学」を受け継ぐ意義を語っていただきました。

【藤井家特別公開展示】

折口信夫の養子藤井春洋の生家「藤井家」を公開しました。折口信夫博士の羽咋来訪時の写真や、毎年命日に門弟たちが行っている藤井家でのお祀りの様子のパネル展示を行いました。

- ・出演者 小川直之(國學院大學名誉教授)
上野誠(國學院大學文学部日本文学科特別専任教授)
笹生衛(國學院大學神道文化学部教授)
- ・アトラクション出演団体 國學院大學全學應援團

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、羽咋市、羽咋市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023羽咋市実行委員会、折口父子記念会

地域文化発信事業

093

万葉特別公開授業「生き方の歴史～万葉集、羽咋、そして折口信夫」

- 開催日：令和5年10月20日(金)
- 開催会場：石川県立羽咋高等学校

能登
エリア

羽咋市



◆実施状況

万葉集研究と分かりやすい解説で人気の、國學院大學の上野誠特別専任教授をお迎えし、羽咋高校の生徒と一般来場者をあわせた530名の方々に対し、万葉集編者大伴家持が訪れた羽咋の歴史と文化、また、羽咋に眠る国文学、民俗学者で歌人でもあった折口信夫の研究内容などの「特別公開授業」を行いました。

上野教授は、古代と現代のつながりを万葉集から読み解く中でお話しいただき、各地域で昔から伝えられている歌や風習には一つの「カタ」があり、その「カタ」を伝えることで文化が伝わる、「すなわち文化とは『カタ』である。」ということを紹介され、そのことを発見したのが、羽咋高校の校歌を作詞した折口信夫であることを説明されました。

また、世界的に大ヒットしたアニメ映画なども、実は古典文学をヒントに作られていることなど、一見新しく見えるエンターテインメントも古典をふまえていることを紹介し、高校生たちは自分たちの身近にも万葉集があることに驚いていました。

さらに、古代において羽咋の地は大陸との交易の重要拠点としてみなされていたことにも触れ、これから社会で活躍する若者に向け、自分の出身地の文化や歴史を学び、自らのアイデンティティーを詳しく話せる人間がグローバルに活躍している人の特徴だということ伝えていました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、羽咋市、羽咋市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023羽咋市実行委員会、



能登
エリア

羽咋市

094

地域文化発信事業

わくわくおりくちしのぶの世界

- 開催日：令和5年10月28日(土)
- 開催会場：宇宙科学博物館コスモアイル羽咋 研修室



◆ 実施状況

羽咋市ゆかりの国文学・民俗学者折口信夫の世界観を気軽に感じてもらえるよう、文学作品『死者の書』の人形アニメーションの上映と短歌づくり体験を実施し、小学生から80代の方まで、幅広い世代の方に参加いただきました。

人形アニメーション『死者の書』では、水が滴る「した、した、した」などの擬態語が多く織り込まれ、原作が難しいと感じている方にも分かりやすい表現で作品の魅力を伝えるなど、折口信夫に興味をもつきっかけにもなりました。

短歌づくり体験では、折口博士に詳しい短歌講師の先生から「見たことをそのまま文字にするのではない」「軸となるキーワードをつくとよい」というアドバイスをいただき、参加者は、日々感じていることや、短歌づくりの難しさを歌に込めたりするなど、参加者は自分なりの短歌を作ろうと鉛筆を走らせていました。短歌づくり初体験の方も多く、家族や友人と悩みながらも楽しんで作る姿も見られ、羽咋に多くの短歌を残した折口信夫にならいつながりながら、短歌に親しんでいただきました。

参加者が作成した短歌43点は11月の羽咋市文化祭に展示し、多くの来場者の方々に見ていただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、羽咋市、羽咋市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023羽咋市実行委員会、折口父子記念会

能登
エリア

かほく市

095

地域文化発信事業

まちを走る多様性アート展

- 開催日：令和5年10月2日(月)～11月24日(金) (平日のみ)
- 開催会場：かほく市内巡回



◆ 実施状況

市内に3カ所ある児童発達施設、放課後等デイサービスに通う子ども達によるイラスト作品を基にデザインしたラッピングフィルムを制作し、福祉巡回バスに貼り付けて走行しました。

バスは、大会開催をPRするため、10月2日より運行開始し、会期中の平日に市内を巡回し、大会の盛り上げを図りました。

巡回期間中に、約6,500名の市民がバスを利用した中、市内巡回の際には、多くの市民の目に触れ、障害のある子ども達の自由な発想によるアート作品を知るきっかけになるとともに、障害者アートに対する理解や関心を高める機会にもなりました。

イラストを作成した子どもからも、「多くの人に見てもらい自信になった」との声をいただき、また、保護者からは、「作品の発表機会になり、子どもの成長につながった」との声も寄せられました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、かほく市、かほく市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023かほく市実行委員会

096

地域文化発信事業

哲学シンポジウム「スポーツを哲学する～地域を盛り上げるヒントを探る～」

- 開催日：令和5年10月29日(日)
- 開催会場：石川県西田幾多郎記念哲学館

能登
エリア

かほく市



◆実施状況

日本で唯一の哲学の博物館である石川県西田幾多郎記念哲学館を会場に、哲学シンポジウムを開催しました。

二ツ屋豊年太鼓保存会の力強い演奏がオープニングを飾り、「走る哲学者」の異名をとる為末大さんが「熟達論-なぜスポーツをするのか」と題して基調講演を行いました。

講演では、限界を乗り越えるための思考の転換の話や西田哲学も絡ませながら、自身の「ゾーン体験」を分かりやすく語っていただきました。

講演後は、本市ゆかりの有識者2名と<スポーツ×哲学×まちづくり>をテーマとしたてい談を行い、子どものスポーツ離れの話題や、失敗や困難に直面した時の乗り越え方などの意見が交わされました。来場者にとって、人生を進むための成長へのヒントを得ることができ、有意義なものとなりました。

また、本シンポジウムは、県内外問わず多くの方々にご覧いただけるよう、ライブ配信を行いました。

【出演者・出演団体】

〈基調講演〉為末大 (Deportare Partners 代表)

〈てい談(トークセッション)〉為末大 西村貴之 (金沢星稜大学教授)

大熊玄 (立教大学教授 / 石川県西田幾多郎記念哲学館副館長)

〈司会〉山名田沙智子 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)

〈実演〉二ツ屋豊年太鼓保存会

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、かほく市、かほく市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023かほく市実行委員会、公益財団法人いしかわまちづくり技術センター、かほく市まちづくりシンポジウム実行委員会

097

地域文化発信事業

ナイトミュージアム～ASUNA “100Keyboards”～

- 開催日：令和5年11月25日(土)
- 開催会場：石川県西田幾多郎記念哲学館

能登
エリア

かほく市



◆実施状況

「考える」工夫が随所にみられる石川県西田幾多郎記念哲学館で最も特徴的である、円形の瞑想空間「ホワイエ」において白山市出身の現代音楽家で国際的に活躍している ASUNA さんが100台以上のキーボードを使ったパフォーマンスを行いました。

パフォーマンスの前には、ASUNA さんによる海外ツアーの様子を交えた作品解説や、哲学館研究員とのトークセッションが行われ、哲学と ASUNA さんの音楽パフォーマンスとの共通点を発見しました。

パフォーマンスでは、科学的な側面からアプローチするというユニークな視点を用いた作曲によって、特異な建築空間ならではの音響となり、互いに共鳴し合ったり、場所によって聞こえ方が違ったりと、不思議な現象が立ち現われ、その幻想的な演奏に来場者は魅了されました。

【出演者】

〈パフォーマンス〉ASUNA

〈プレパフォーマンス・トーク〉ASUNA

高谷掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)

〈司会〉大谷内真郷

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、かほく市、かほく市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023かほく市実行委員会



098 地域文化発信事業 **つばた落語まつり** 能登エリア 津幡町

● 開催日：令和5年10月15日(日)
● 開催会場：津幡町文化会館「シグナス」大ホール



◆ 実施状況

全国からアマチュア落語家の出演者を募集し、プロ落語家による予選審査を経て選ばれた8名による落語大会を実施しました。

大会では、笑いあり感動ありの落語を披露し、それぞれが巧の話術で落語の世界に観客を引き込み、落語の腕を磨きあうものとなりました。審査員はそのレベルの高さに悩みながら入賞者を選び、表彰式では、町広報特使の月亭方正さん、兄弟子の月亭文都さんよりトロフィーと目録が贈られ、また、出演者全員に津幡町特産品詰め合わせがプレゼントされました。

幕間には、「津幡おさらくごの会」による「つばた大喜利」が催され、会場は終始笑いに包まれました。

第2部では、月亭方気さん、月亭方正さん、月亭文都さんが迫力ある落語を披露し、落語漬けの一日となりました。

【プログラム】

- 第1部 つばたおさらくご大会(全国アマチュア落語大会) つばた大喜利(津幡おさらくごの会)
- 第2部 つばた落語会(月亭一門競演)

【表彰】

- 最優秀賞 春歌亭丹馬(兵庫県在住) 優秀賞 夢見家春木(金沢市在住)
- 優良賞 葵亭真月(福井県在住) シグナス特別賞 俺亭きりり(東京都在住)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、津幡町、津幡町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023津幡町実行委員会、津幡おさらくごの会

099 地域文化発信事業 **粟ヶ崎遊園 -砂丘に咲いた夢と浪漫-(ラッピング電車)** 能登エリア 内灘町

● 開催日：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)
● 開催会場：北陸鉄道浅野川線 内灘駅～北鉄金沢駅



◆ 実施状況

1925(大正14)年、内灘の砂丘地に「北陸の宝塚」と謳われた「粟ヶ崎遊園」という大遊園地があり、大人から子どもまで大変な人気を集めました。いしかわ百万石文化祭2023の大会期間中、「粟ヶ崎遊園」と縁の深い北陸鉄道浅野川線において、粟ヶ崎遊園をイメージしたラッピング電車を運行し、大会を盛り上げました。

ラッピングのデザインは、全国から募集し、115作品の応募の中から、石川県知事賞を受賞した宮谷ゆいなさん(石川県/大学生)の作品を原画に、車両外装全面にラッピングしました。

また、車内には、そのほかの入賞作品や粟ヶ崎遊園の歴史に関する展示も行い、乗車した延べ5万人余りの方々に、粟ヶ崎遊園が賑わっていた往時に思いを馳せながら、アート作品等を楽しんでいただきました。

【表彰】

- 10月14日 表彰式、出発セレモニーを実施
- 石川県知事賞 …………… 宮谷ゆいな (石川県/大学生)
 - 内灘町長賞 …………… 浅田艶 (石川県)
 - 内灘町議会議長賞 …………… けーと (東京都/イラストレーター)
 - 内灘町教育委員会教育長賞 …… 高山そら (石川県/小学生)
 - 北陸鉄道社長賞 …………… 谷内美奈子 (石川県)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、内灘町、内灘町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023内灘町実行委員会

100

地域文化発信事業

栗ヶ崎遊園 -砂丘に咲いた夢と浪漫- (ミュージカル)

- 開催日：令和5年11月12日(日)
- 開催会場：内灘町文化会館 大ホール

能登
エリア

内灘町



◆実施状況

かつて内灘町にあった大遊園地「栗ヶ崎遊園」をテーマに制作したファミリーミュージカル「アワガサキトラベラーズ」を上演しました。

公演にあたって、脚本と20曲もの楽曲が書き下ろされるなど、2時間を超える本格的なミュージカルとなりました。出演者の多くはオーディションを経てキャスティングされ、4か月にも及ぶ稽古に励みました。

昼、夜の2回公演で、800名を超える方々が鑑賞し、情感豊かな歌やバレエで繰り広げられる希望に満ちあふれた物語を通して、かつて、「北陸の宝塚」とも言われた栗ヶ崎遊園の歴史を多くの方々を知っていただくとともに、遊園の大劇場で上演されていた演劇、レビューの雰囲気を感じていただくことができました。

【クリエイティブ・スタッフ】

プロデューサー／音楽監督／作詞／作曲／編曲：北方喜旺丈

脚本／演出／作詞／振付：吉田隼人

バレエ振付：高橋英子

舞台監督：埴生志朗

音響照明：yun sound design

衣装：宮村知香子

演出助手：吉田ますみ

運営：門口欣也

企画制作：かがやき音楽団／株式会社北方音楽事務所

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、内灘町、内灘町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023内灘町実行委員会

101

地域文化発信事業

志賀町所蔵版画作品巡回展

- 開催日：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)
- 開催会場：富来活性化センター 1階ロビー、ロイヤルホテル能登 2階ロビー、志賀町文化ホール 1階芙蓉

能登
エリア

志賀町



◆実施状況

志賀町は、長年、全国子ども版画コンクールを開催するなど、子ども達の版画教育に取り組んでおり、今回、国民文化祭に合わせ、これまでのコンクール優秀作品や、大型共同制作作品、日本教育版画の祖「大田耕士」(東京都)などのプロ版画作品など、町が所蔵している版画作品をテーマごとに集め、3カ所の会場で、それぞれ実施しました。

コンクールの優秀作品では、子ども達が農村の風景や漁の様子などを表現した版画もあり、来場者は、版画文化をより身近に感じることができた様子でした。

また、大型共同制作作品では、統廃合になった小学校の児童や、かつて地元の版画教室に通っていた子ども達が制作した大型の版画を展示し、なかでも、横幅4メートルほどの圧巻の大作に、来場者は魅了され、新たな版画の魅力や可能性を発見していただきました。

①子ども版画コンクール優秀作品

10月14日(土)～10月24日(火) 富来活性化センター

②大型共同制作作品

10月28日(土)～11月7日(火) ロイヤルホテル能登

③大田耕士ほかプロの版画作品

11月11日(土)～11月26日(日) 志賀町文化ホール

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、志賀町、志賀町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023志賀町実行委員会、志賀町版画協会



地域文化発信事業

102 和牛サミット in 志賀

● 開催日：令和5年10月29日(日)
● 開催会場：志賀町文化ホール

能登エリア
志賀町



◆ 実施状況

「日本が世界に誇る食文化『和牛』についてもっと知ってみよう!」をテーマに、地元の能登牛をはじめとした全国各地の和牛を、食べて、学んで、楽しむことができるイベントを開催しました。

サミットでは、宮崎県産の黒毛和牛「尾崎牛」を生産する、尾崎宗春さんに講演いただいた後、食肉検定1級を持つタレントのフォーリンデブはっしーさんをお迎えしたパネルディスカッションを行いました。地元の能登牛生産者の寺岡才治さん、東京や大阪の和牛レストランの経営者も参加し、和牛を熟知した方ならではのおいしい食べ方などを紹介していただきました。最後は、林家三平さんによる和牛に関する落語も披露され、会場は大いに盛り上がりました。

また、子ども達が、牛飼育展示コーナーで学びながら、牛に関するクイズに答えるクイズラリーや牛の工作コンテストも行い、大人から子どもまで和牛の魅力を知ることができ、新たな発見も見つかった1日となりました。

和牛を堪能できる「和牛フェス in 志賀」も同時開催し、全国から和牛のキッチンカーや地元のグルメスイーツなど、大行列の人気ぶりでした。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、志賀町、志賀町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023志賀町実行委員会

地域文化発信事業

103 企画展「末森合戦の舞台」

● 開催日：令和5年10月20日(金)～11月19日(日)
● 開催会場：宝達志水町埋蔵文化財センター

能登エリア
宝達志水町



◆ 実施状況

末森城跡は、かつて宝達志水町にあった戦国時代の山城跡で、加越能3カ国の境に位置し、重要な軍事拠点として機能しました。歴史上では、天正12(1584)年9月に、加賀の前田利家と越中の佐々成政が激突した「末森合戦」の舞台として有名です。

本企画展では、末森城跡の出土品(鉄砲玉・基石など)や末森城模型をはじめ、上杉謙信・織田信長・前田利家・土肥親真などの発給文書の写真パネル展示などにより、「末森合戦」の舞台となった城跡の姿や歴史を紹介しました。期間中は、県内外から462名の方々に来場いただき、末森城跡の魅力を堪能していただきました。

なかでも、末森合戦絵巻として知られる「末森赴援画卷」(前田育徳会所蔵)に関心が集まり、来場者からは、「貴重な歴史資料を実際に見ることができた」などの声が寄せられました。

また、関連企画として、展示内容に沿った歴史講座(11月3日)を開催したほか、展示期間中にギャラリートーク(展示解説)を2度開催するなど、県内外の多くの方々に、末森城跡の歴史に関心を持っていただくことができました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、宝達志水町、宝達志水町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023宝達志水町実行委員会

104

地域文化発信事業

岡部家で楽しむ茶会・アート展

- 開催日：アート展：令和5年10月25日(水)～10月30日(月)、茶会：10月28日(土)～10月29日(日)
- 開催会場：石川県指定有形文化財「岡部家」

能登
エリア

宝達志水町



◆実施状況

加賀藩十村役をつとめた石川県指定有形文化財「岡部家」で、末森城(末森合戦)をテーマにした「岡部家で楽しむ茶会・アート展」を行いました。

茶会とアート展をあわせ、県内外から884名が訪れ、参加者から「また、このような機会を楽しみにしている」などの声が寄せられました。

【アート展】

宝達志水町在住の4名の作家により、昨今の戦争や災害の思いを、造形作品「ツインタワー」で破壊と祈りを表現したほか、草月流派による生け花アート「宙」の作品や、日展作家の陶芸作品、漆芸、盆栽などの作品が並び、地域の歴史文化を感じられる空間で、気軽にアートに親しんでいただきました。

【茶会】

10月28日、29日の2日間にわたり、表千家流のお茶会を開催しました。お茶会には、宝達志水町の2つの菓子店が、末森城をイメージし、前田利家と佐々成政の戦いの攻防を2色で表現した「花の宴」と、お城から望む秋の風景を表現した「錦秋の末森城」のオリジナル創作和菓子が使用され、参加者から好評を博しました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、宝達志水町、宝達志水町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023宝達志水町実行委員会

105

地域文化発信事業

加賀藩ゆかりの地をめぐる歴史ツアー

- 開催日：令和5年10月29日(日)
- 開催会場：末森城跡(末森山)、末森山西照寺、菅原神社、石川県指定有形文化財「岡部家」

能登
エリア

宝達志水町



◆実施状況

宝達志水町にある、加賀藩ゆかりの文化財を見学し、地元の魅力を再発見する歴史バスツアーを企画・実施しました。

まず、天正12(1584)年に前田利家と佐々成政が争った末森城跡(県指定史跡)では、町埋蔵文化財センター職員が案内役を務め、前田家の行末を左右した歴史の舞台に思いを馳せました。

次に、末森城将の奥村家福(永福)が出した制札を有する西照寺および利家に厚遇された菅原神社では、それぞれ住職・宮司による案内・解説があり、地元と加賀藩との関わりについて理解を深めました。

最後に、加賀藩の村方支配において重要な役割を果たした十村役をつとめた豪農の屋敷である岡部家(県指定有形文化財)で開催中のアート展・お茶会を楽しみ、参加者に町の文化の魅力を存分に堪能していただきました。

【スケジュール】

JR宝達駅出発→末森城跡→西照寺→宝達志水町生涯学習センター(昼食)→菅原神社→岡部家→JR宝達駅到着

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、宝達志水町、宝達志水町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023宝達志水町実行委員会

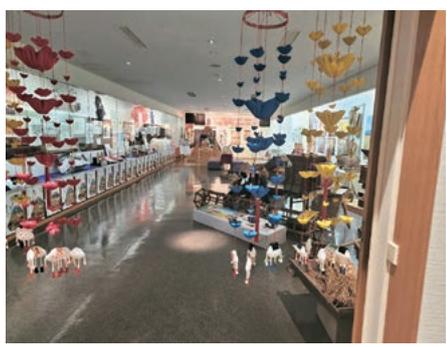


地域文化発信事業

106 日本最古のおにぎりルーツ展&どぶろくルーツ展

能登エリア
中能登町

● 開催日：令和5年10月15日(日)～11月26日(日)
● 開催会場：ふるさと創修館、天日陰比咩神社 ほか



◆ 実施状況

おにぎりの里としてのきっかけとなった、昭和62年に杉谷チャノバタケ遺跡の発掘調査で出土したチマキ状炭化米塊の実物の特別展示や、当時の発掘担当者の1人である栃木英道さんを迎えての講演を行い、当時の発掘時のエピソードを語っていただくなど、おにぎりの歴史をたどりました。

また、全国でも有数の「どぶろく特区」に指定されている中能登町の醸造や歴史などを紹介するパネル等の展示会やどぶろくに含まれる成分や効能に関する講演のほか、ジャズの生演奏と漫才を楽しみながら、町で生産されたどぶろくを味わえるイベントなど、様々な取り組みで江戸時代から受け継がれるどぶろくの魅力を発信しました。

- 【プログラム】
- おにぎりルーツ展(10月15日～11月26日)
 - どぶろく利き酒交流会(10月26日)
 - ONIGIRIライブ・おにぎり対談(10月29日)
 - どぶろくルーツ展(11月1日～26日)
 - どぶろく講演会&女たちの集い(11月11日)
 - おにぎりルーツ講演(11月19日)
 - どぶろくジャズ&漫才(11月26日)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、中能登町、中能登町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023中能登町実行委員会、中能登おにぎり縁むすびの会、中能登町観光協会、どぶろく地域おこし推進プロジェクトチーム

地域文化発信事業

107 異彩なアート展

能登エリア
中能登町

● 開催日：令和5年11月7日(水)～11月25日(土)
● 開催会場：カルチャーセンター飛翔



◆ 実施状況

中能登町は、多文化共生の町として心のバリアフリーの先進地を目指して積極的に取り組んでおり、その一環として、障害のある人の個性的で思いを込めたメッセージと基幹産業である織物を融合した独創的なアート展を実施しました。

県内外の24福祉施設の利用者から寄せられたメッセージ(アート)約100点を、壁画などいろいろな布にプリントアウトし、会場を彩ったほか、障害のある人や高齢者が気軽に着られる着物「キモノール」の試着や車椅子の試乗も行い、町内の障がい者施設や小学校の子ども達、町多文化共生の会など、多くの方に体験していただきました。

- 【関連イベント】
- 多様性能登旅・ワークショップ(11月20日(月))

車いすユーザーや外国人ら約20名が、観光施設など巡り、多様性について意見を交わしました。参加者からは、今回の能登旅の体験から、「説明看板などに英語標記が欲しい」「浴衣やスリッパなどサイズの大きいものが無い」など、問題点等を話し合いました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、中能登町、中能登町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023中能登町実行委員会、特定非営利活動法人 石川バリアフリーツアーセンター

108

地域文化発信事業

能登ワイン新酒フェスタ 2023

- 開催日：令和5年11月11日(土)～11月12日(日)
- 開催会場：能登ワイン株式会社

能登
エリア

穴水町



◆実施状況

石川の食と能登ワインを堪能できるイベントを2日間にわたり開催しました。イベントでは、大会のアンバサダーで、ワイン通として知られる俳優の辰巳琢郎さんと、穴水町出身の梅花女子大学食文化学部教授の東四柳祥子さんと能登ワイン生産者によるスペシャルトークショーが行われ、自分の住む土地のワインを飲む楽しさや能登ワインに合う地元料理などを紹介いただきました。

このほか、会場では、能登ワインヌーボやレギュラーワインが販売されたほか、事前募集した「おつまみレシピコンテスト」の入賞作品の料理も再現・販売しました。さらに、地元音楽バンドや町健康クラブの「能登ワイン音頭」のステージ、日本のワイン文化の歴史や能登ワインのパネル展示など、多彩な催しを繰り広げました。

来場者からは、「ブドウ畑を見渡しなが屋外で飲むワインが最高」という声も寄せられ、普段ワインを飲まない人も楽しんでいただき、能登ワインの魅力を広く発信することができました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、穴水町、穴水町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023穴水町実行委員会

109

地域文化発信事業

障がい者芸術祭「アートでつながる人とまち」

- 開催日：令和5年11月23日(木・祝)～11月26日(日)
- 開催会場：のと鉄道穴水駅、さわやか交流館プルート、能登長寿大仏、能登ワイン、穴水商店街

能登
エリア

穴水町



◆実施状況

障がい者支援施設に通う人々を中心に、穴水町出身の画家 大森慶宣さんと学生・商店街の皆さんが協力して制作したアート作品を町実行委員会アートディレクターの角章子さんが監修し、町内6ヶ所に展示しました。

テーマのひとつである「誰一人取り残さない」を体現するため、廃園(幼稚園)や廃校によって残された、積み木や机・椅子、地球儀なども色付けして活用したほか、障がい者支援施設に通う方が制作したアート園芸植物や生け花なども組み合わせ展示するなど、様々な個性溢れるアート作品で会場を彩りました。

また、作品全体を、全会場を巡ってもらうため、QRコードを使ったデジタルスタンプラリーも実施しました。

やわらかな能登の風景と、そこに暮らす人々の心温まる作品のコラボレーションを、多くの町民や観光客に楽しんでいただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、穴水町、穴水町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023穴水町実行委員会



110 文化団体事業 人形劇フェスタinあなみず

文化団体事業

- 開催日：令和5年10月21日(土)～10月22日(日)
- 開催会場：のとふれあい文化センター

能登
エリア

穴水町



◆ 実施状況

全国の人形劇団体が一堂に会して、人形劇を披露するフェスタを開催しました。地元の穴水むかし話の会「えんなか」をはじめ、ろう者と聴者でつくるデフ・パペットシアター・ひとみ（神奈川県）など、17団体が参加し、それぞれが趣向を凝らし、多彩な人形劇を繰り広げました。

人形がひょうきんに動く様子を見て、会場は子ども達の笑顔と笑い声であふれていました。

また、会場には、地元のおいしいものが楽しめる屋台も登場し、親子で楽しい1日を過ごしていただきました。

なお、フェスタ前日は、前夜祭として、大人が楽しめる人形劇を開催し、人形劇のほか、腹話術や、地元のカホソ演奏も行われるなど、2日間を通し、多くの方々に人形劇の魅力を感じていただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、穴水町、穴水町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023穴水町実行委員会

111 地域文化発信事業 能登発酵文化祭

地域文化発信事業

- 開催日：令和5年10月22日(日)
- 開催会場：Heart & Beer 日本海倶楽部

能登
エリア

能登町



◆ 実施状況

能登の発酵食の歴史や技術のほか、新たな魅力も発信する祭典を開催し、500名の方々に来場いただきました。

「トークセッション」では、発酵デザイナーの小倉ヒラクさんや、発酵インスタグラマーのMisakiさんらに、能登の発酵文化を分かりやすく解説していただきました。

また、能登の伝統的な魚醬である「いしり」を使ったワークショップでは、能登町小木で親しまれてきた家庭料理「イカの甘酢づけ」作りを体験したほか、能登の料理人たちが、発酵食品の特別メニューを振る舞うコーナーも設けるなど、ここにしかない能登の発酵食の魅力を感じていただきました。

ほかにも、人気店のシェフ3名による発酵をテーマとしたレストランを1日限定オープンしたほか、発酵マーケットなども同時開催するなど、能登の発酵食を未来に繋いでいく思いが会場を包んでいました。

【トークセッション】

- テーマ① 能登の発酵食と日本酒のマリアージュ
- テーマ② いしり「旨味の沼」
- テーマ③ 発酵から能登の文化を見る
- テーマ④ シェフからみた発酵食の世界

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能登町、能登町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能登町実行委員会

112

地域文化発信事業

能登半島宇出津発祥 伝承娯楽「ごいた」に触れて!

- 開催日：令和5年10月28日(土)～10月29日(日)
- 開催会場：能登町立宇出津公民館(コンセールのと)

能登
エリア

能登町



◆実施状況

「ごいた」は、4人で盤を囲み、将棋の駒とよく似た竹製のコマを使って、2人1組で相手方と得点を競い合う頭脳ゲーム(ボードゲーム)で、能登町の宇出津地区から全国各地に広がっていきました。

この「ごいた」の魅力を県内外に伝えるため、2日間にわたり、全国交流大会とシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、ゲーム研究家の草場純さんが、ゲームと地域振興をテーマに講演を行った後、能登ごいた保存会の洲崎一男会長ほか、東京支部長や大阪支部長など7名によるパネル討論も行い、「ごいた」との出会いや魅力を語っていただきました。

このほかにも、初心者大会や、会場内に全国7支部がごいた普及に取り組んだ足跡をパネル展示により紹介するなど、全国からの参加者は、能登の人との触れ合いも楽しみながら、さらなる交流を深めていました。

【プログラム】

- 10月28日(土)13:00～ 「ごいた」全国交流大会
- 10月29日(日) 8:45～ シンポジウム「地域に根付いたゲームが地域を元気にする」
- 10月29日(日)13:30～ 「あつまれ初心者!!ごいた大会」

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能登町、能登町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能登町実行委員会

113

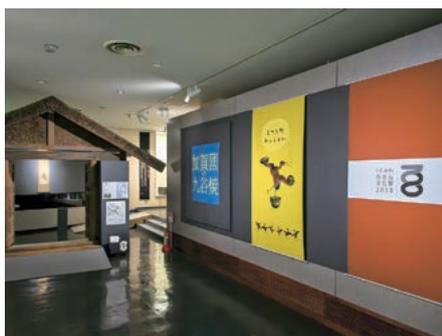
地域文化発信事業

特別展「加賀国の九谷焼」

- 開催日：令和5年10月7日(土)～11月26日(日)
- 開催会場：小松市立博物館、小松市立錦窯展示館

加賀
エリア

小松市



◆実施状況

加賀国の九谷焼は、色あざやかな上絵付が特徴です。政治的安定のもと文化的成熟期を迎えた江戸後期、色彩へのあこがれが強い時代にあつて、九谷焼の陶工が全国に招かれたことで各地に九谷焼の影響を受けた焼物が誕生しました。

本展では、その焼物の中から彦根の湖東焼、摂津の三田焼を九谷焼と比較展示しました。展示は花坂陶石を見出した本多貞吉画像にはじまり、加賀の陶工が各地に赴いた足跡をたどることで、全国的なつながりを俯瞰しました。

また、2023年は「上絵付(九谷焼)」の分野で「助成の措置を講ずべき国の無形文化財」に選定された初代徳田八十吉の生誕150年という記念の年でした。初代の作品だけでなく、その色を受け継ぎ「彩釉磁器」という上絵の新しい分野を確立させた三代の作品に九谷の色絵の昇華をご覧いただきました。

【イベント】

11月5日開催のギャラリートーク「モデルとコピー ～九谷焼を写した関西のやきもの～」では、中之島雪雪美術館学芸課長の梶山博史さんをお招きして九谷焼の影響を受けた関西の視点から講演をいただき、参加者は理解を深めました。

11月19日、20日開催のイベント「初代八十吉生誕150年 記念祭」では、初代の音声記録を四代八十吉さんと聴き、受け継がれる色についてお話をいただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、小松市博物館展覧会開催委員会、小松市立博物館、小松市立錦窯展示館